

なんたん健幸まちづくり事業

なんたん健幸まちづくり1.0 (第1段階)
: 健幸ポイントを中心とした健幸まちづくり

* 年間4500万円の医療費・介護費が軽減された (R5調査)
健幸ポイント参加者年齢層の片寄り
⇒健康無関心層に情報がいきわたっていない

なんたん健幸まちづくり2.0 (第2段階)
: 健幸ポイントの充実と社会課題解決に向けた施策への昇華

* 健幸まちづくり1.0で進めてきた一人ひとりの健幸を、これからの社会課題である労働人口の減少、少子化を解決する施策へ昇華させる。

地方創生第2世代交付金を活用

交流拠点の整備 (R7)

まちなかにぎわいパーク
元桐交流ひろば
園部南部交流ひろば

健幸ポイント (R8・R9)

健幸ポイントの機能追加 (ボランティア活動・ポイント交換メニュー追加)
モビリティハブ

美山版地域包括ケアシステムの整備 (R8・R9)

要支援者の状況に応じた支援体制の整備

健幸アンバサダー・キッズ健幸アンバサダーの養成 (R8・R9)

健康無関心層に向けて、健康づくりの大切さを身近な人に伝える健幸アンバサダーを養成する。

第3次 健幸まちづくり計画の策定 (R8)

まちの健幸づくりを備えた健康増進・食育推進計画 = 第3次 健幸まちづくり計画の策定

健幸・食育レシピコンテスト (R8・R9)

小中学生を対象に、課題 (特産品使用・減塩など) に応じた料理レシピのコンテストを行い、優秀作品を表彰する。

【南丹市が目指す将来像】

人々が南丹市に住むことで健幸になり、生涯に渡って安心して暮らせるまちを目指す。
(健幸 = 健康で幸せ 心身ともに幸せな、満たされた状態)

- ・コミュニティ活動、世代間交流が活発になり、商店街ににぎわいを取り戻し、若者、女性が安心して働き、子育てしながら暮らせる生活環境を創生する。
- ・高齢者が、買い物、医療、介護など日常生活に不可欠なサービスが提供されるまちを作る。
- ・交通弱者に配慮した、利用しやすい公共交通機関を考慮したまちを作る。

なんたん健幸まちづくり事業のメニュー

3年間（最長5年間）の補助事業。拠点整備事業（ハード事業）とソフト事業の組み合わせ。

交流拠点の整備（R7）

まちなかにぎわいパーク
元桐交流ひろば
園部南部交流ひろば

健幸ポイント（R8・R9）

健幸ポイントの機能追加（ボランティア活動・ポイント交換メニュー追加）
モビリティハブの検討

美山版地域包括ケアシステムの整備（R8・R9）

要支援者の状況に応じた支援体制の整備

健幸アンバサダー・キッズ健幸アンバサダーの養成（R8・R9）

健康無関心層に向けて、健康づくりの大切さを身近な人に伝える健幸アンバサダーを養成する。

第3次 健幸まちづくり計画の策定（R8）

まちの健幸づくりを備えた健康増進・食育推進計画＝第3次 健幸まちづくり計画の策定

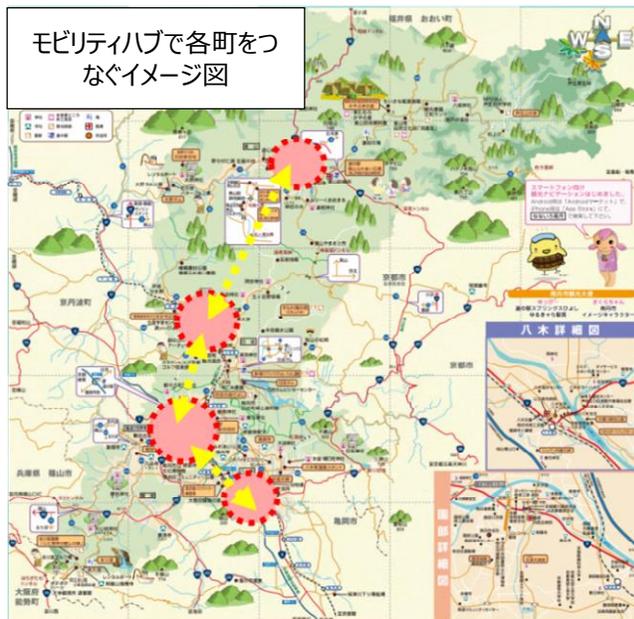
健幸・食育レシピコンテスト（R8・R9）

小中学生を対象に、課題（特産品使用・減塩など）に応じた料理レシピのコンテストを行い、優秀作品を表彰する。

健幸ポイント (R8・R9)

健幸ポイントの機能追加(ボランティア活動・ポイント交換メニュー追加)
モビリティハブの検討

モビリティハブで各町をつなぐイメージ図



① 交流拠点でのイベント開催
交流拠点でウォーキングイベントやヨガ教室などのイベントを開催する。

② ポイント付与条件・ポイント交換メニューの追加

- ・ボランティア活動へのポイント付与
- ・健幸ポイントを地域・小学校寄附でできる機能の追加。

③ 地域情報などを積極的にPRするウェブサイトの開設
・健幸ポイント参加者が、地域情報・写真を積極的にPRするサイトを開設。

④ モビリティハブの検討

モビリティハブ：市営バス、デマンドバス、JR公共交通の乗り継ぎに伴う「待ち時間」を楽しい物に変換するため、空調やカフェ・自習室・図書室・Wi-Fi環境を備えた待合所のこと。

・健幸ポイント送信のために交流拠点を訪れた参加者や、交流拠点の近隣に住む人が交流し、自然発生的に世代間交流や、コミュニティが生まれることを目指す。

・健幸ポイント参加者が地域ボランティアとして活動し、地域コミュニティの活性化に係る。(通いの場での運動教室、サークル活動、防災活動など)。
・社会参加による満足感や自己肯定感を高め、参加者のウェルビーイング(健幸で幸せな状態)向上につなげる。

SNSを通じたコミュニティの活性化を図る。
自分の住む地域の魅力を再発見し、地域への愛着を深める。

将来見込まれる公共交通の減便、路線減に対応するもの。
保健福祉センター美山分室・みやま診療所・道の駅が近接する周辺や拠点施設をモビリティハブとして活用することを検討する。美山地域での検討を進め、市内各地に広げる。

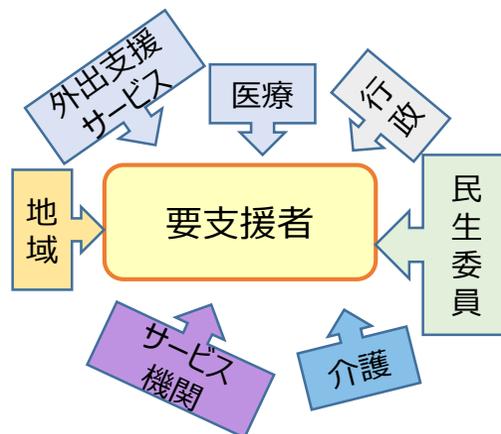
美山版地域包括ケアシステムの整備 (R8・R9)

要支援者の状況に応じた支援体制の整備

南丹市

園部町	八木町	日吉町	美山町
面積：103km ²	面積：50km ²	面積：124km ²	面積：340km ²
人口：15,269人	人口：6,621人	人口：4,221人	人口：3,216人
65歳以上割合：29.58%	65歳以上割合：41.61%	65歳以上割合：44.99%	65歳以上割合：48.82%

・高齡化・人口減少が本市他地域と比較して著しい広大な中山間地である美山地域において、サービスが必要な要支援者に対して関係機関で総合調整を行い、一体的にサービスを受けられる体制を作る。



住み慣れた街で生活し続けられる支援体制の構築

健幸アンバサダー・キッズ健幸アンバサダーの養成 (R8・R9)

健康無関心層に向けて、健康づくりの大切さを身近な人に伝える健幸アンバサダーを養成する。

健幸アンバサダーとは、「健幸」を達成するために必要かつ正確な情報を、健康づくり無関心層を含めた地域住民に「心に届く情報」として伝え拡散する役割を持つ人のことで、一般社団法人スマートウェルネス協議会が認定しています。

南丹市では、令和元年度から18歳以上の方を対象に健幸アンバサダー養成講座を開催しており、現在252名の方が健幸アンバサダーとして活動しています。

授業内容 (90分)

体育・総合的な学習

① スポーツと健康の重要性 キッズ健幸アンバサダーの使命と役割とは (15分)

⇒スポーツと健康の重要性を理解
⇒インフルエンサーの役割理解

② オリンピック選手による技術指導 (30分)

⇒スポーツの凄さ、楽しさ

③ パラリンピック選手による技術指導 (30分)

⇒障がいを持つことと、他人を思いやる気持ち

④ 相手に伝わる話し方 (15分)

⇒これから活動してほしいこと

+ 選手紹介動画鑑賞

(講座開始前2本 1本あたり1~3分)

+ アンケート調査

(事前・開催直後・1~2ヶ月後・保護者)



授業の一環として取り組むことで、スポーツに興味のない子どもがスポーツに出会うきっかけとなる。

授業の一環として、オリンピック選手・パラリンピック選手が講師になりスポーツの楽しさ・重要性を理解・体感する養成講座を開催

からだ、こころの健康の大切さや、スポーツの楽しさを知り、実践できる力を育む。
アスリートのお話を聞き、アスリートと触れ合うことで、夢を持ち、夢の実現のために努力できる力を育む。

事業の波及効果として

地域への働きかけ

子どもからの情報伝達

地域の高齢者

社会参加・世代間交流のきっかけづくり

保護者・祖父母

子どもからの声に耳を傾け、スポーツに取り組む

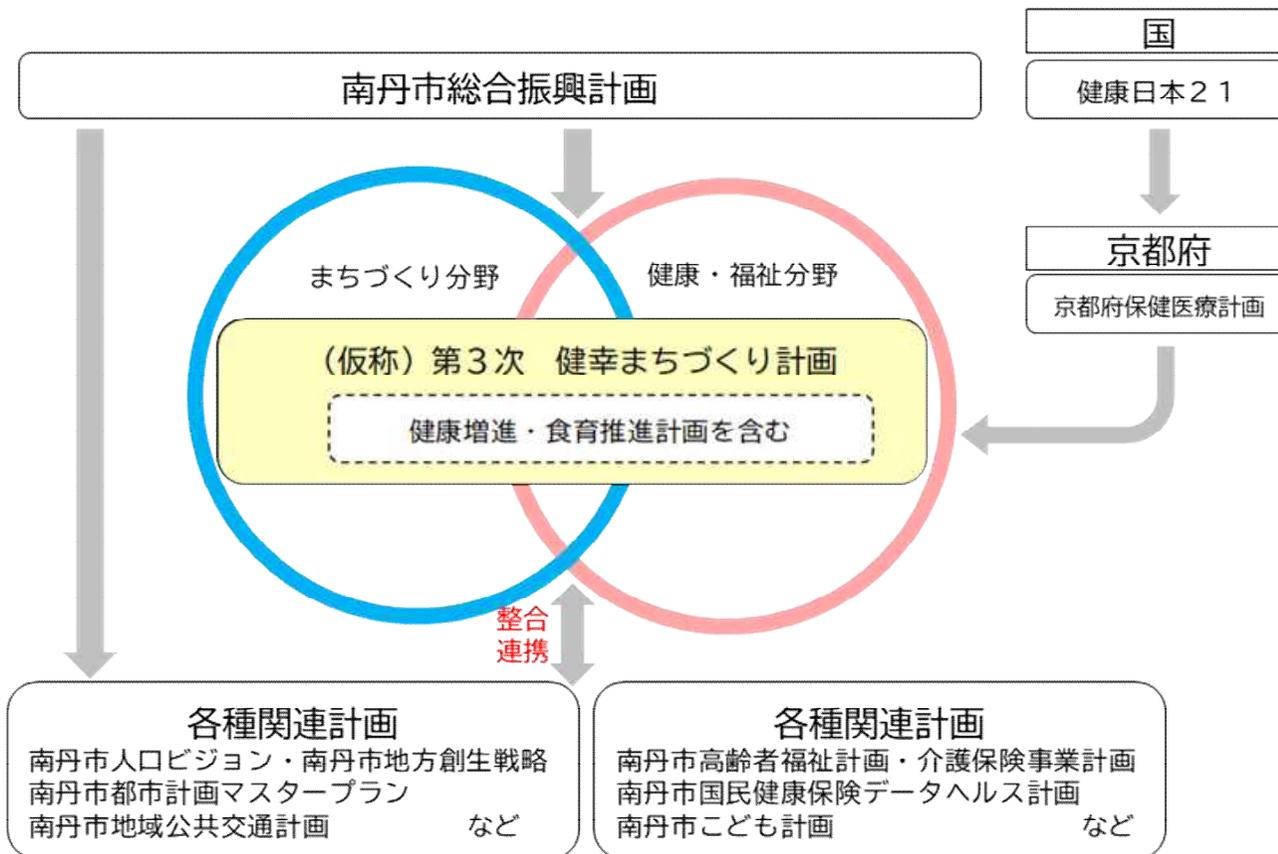
自分の住んでいる地域への愛着を深め、いつまでも住み続けたいまちづくりの原動力となれば…。

第3次 健幸まちづくり計画の策定 (R8)

まちの健幸づくりを備えた健康増進・食育推進計画 = 第3次 健幸まちづくり計画の策定

南丹市健康増進・食育増進計画を基本に、ウォーカブル（歩ける・歩きたくなる）なまちづくり「健幸なまちづくり」についての内容を含んだ計画。

(仮称) 第3次 健幸まちづくり計画について



車中心の社会から、拠点施設・モビリティハブを活用して、より利用しやすい公共交通の再編を行うことで、住み続けられるまちづくり、地域づくりの指針として、縦割り施策となっている健康づくり（疾病予防）、まちづくり、公共交通計画に横串を指す計画とする。

健康寿命の延伸と交通弱者に配慮した、健康に生活でき、利用しやすい公共交通機関を考慮した総合的なまちづくりが可能となる。

健幸・食育レシピコンテスト (R8・R9)

課題(特産品使用・減塩など)に応じた料理レシピのコンテストを行い、表彰する。

令和2年度からの取り組み。小中学生を対象に課題に応じた食育・健幸レシピを募集し、応募作品を審査の上、優秀作品を表彰する。
優秀作品は、学校給食や幼稚園の給食献立として児童生徒に提供される他、商工会でお城まつりなどのイベント開催時にアレンジメニューを提供している。
応募作品は毎年増加しており、小中学生の関心も高い。

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
身近な野菜を使ったレシピ	野菜を使ったレシピ	①野菜や米を使ったレシピ ②和食健幸レシピ	①朝ごはん野菜レシピ ②和食健幸レシピ	①野菜と大豆を使ったカルシウムたっぷりレシピ ②和食健幸レシピ	南丹市で作られている食材を使った簡単減塩レシピ
小学生72作品 中学生216作品	小学生46作品 中学生370作品	小学生111作品 中学生282作品	小学生83作品 中学生299作品	小学生233作品 中学生230作品	小学生146作品 中学生359作品

応募作品数が
過去最高

家族と一緒にレシピを考えることで、食育・健康づくりを考える機会になる。
南丹市の特産品を使うことで、自分の住んでいる地域に関心を持ち、愛着を持ってもらう。

優秀作品を表彰する。
給食献立に採用
アレンジメニューをイベント時に販売。